

# 関電が頼った「ドン」

## 金品受領問題

# 元助役政界にも影響力

関西電力の八木誠会長から経営幹部が多額の金品を受領していた問題で、金品を渡していたとされる高浜町元助役の森山栄治氏（今年三月に死去）は一九六九（昭和四十四）年に高浜町に入庁。地元関係者によると、人脈を駆使して建設事業を呼び込むなど手腕を振るって政界にまで影響力を持ち、町内や関電内部で「Mさん」と呼ばれていたという。

―面参照

（取材班）



森山栄治氏  
＝高浜町提供

七十七八年には町の助役を務め、八〇年に着工した高浜原発3、4号機への反対運動を抑える役回りを担った。異議の一人は森山氏について「義理堅い人。役場にも、住民にも、業者にも顔が利くから、関電からまとめ役として頼られていたと振り返り、別の異議は「若狭の『ドン』。関電は森山さんを避けて通れなかった。森山さんに金品を贈られると断り切れなかったのではないかと指摘する。

工事経歴書によると、森山氏に資金を出していたとされる高浜町の建設会社は、大阪、高浜原発の安全対策工事に絡み敷地造成や建築などを請け負っていた。二〇一八年までの三年間に、年間十五億―二十億円の売り上げのおよそ半分以上を関電関係の工事が占めていた。

「事実ならば原発に対する社会的信頼を損ねることにつながりかねない」と戸惑った。高浜原発近くに住む女性（ふ）は「町の物事を進める中ではかなりやり手だったと聞いた」と、関電の経営幹部に金品を渡していたとされる元助役の森山氏の評判を語った。自営業の七十代女性は「なぜ亡くなった半年たったタイミングで判明だったのか。もっと早い段階で分からなかったのかと首をかしげた。

問題発覚を受け、原発に反対する市民団体が同日午後、急ぎ美浜町の関電原子力事業本部に真相解明を求め、抗議文を提出。小浜市の住職中尾哲演さん（ふ）は「関電の自浄能力は皆無に等しい。モラルを失っている関電が原発を安全に運

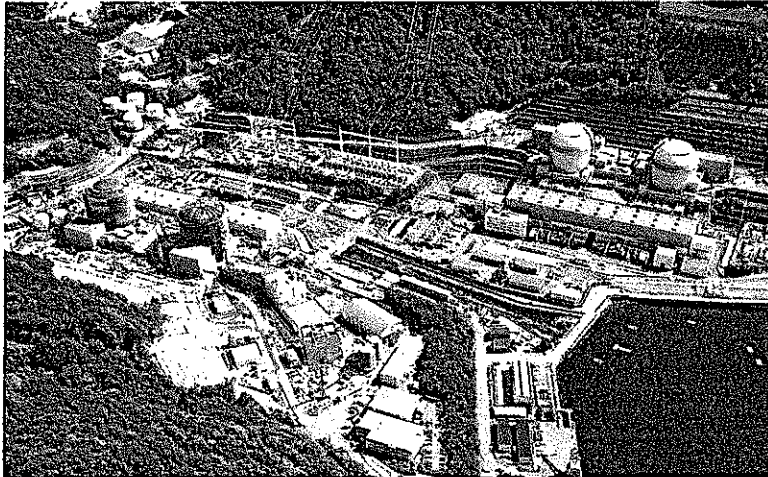
転できるとは到底思えない」と痛烈に批判した。

### 官房長官会見

### 「大変な問題」

菅義偉官房長官は二十七日の記者会見で、関西電力の役員らが高浜町の元助役から金品を受領していた問題を強く批判した。「公益事業を担う事業者は、地元や国民からの信頼が何よりも不可欠だ。不透明な形で長年にわたり金品を受領していたのは大変な問題だ」と述べた。

今後の対応について「経済産業省が関西電力から詳細に事情聴取し、類似の事例がないかを徹底調査する」と強調。関西電力には「しっかりと説明責任を果たし、信頼回復を図ることが必要だ」と求めた。



関西電力高浜原発。左から1号機、2号機、3号機、4号機＝5月、高浜町で

4/28  
配布